２章　2014 年度 COC 事業による「教育」

コラボ教育

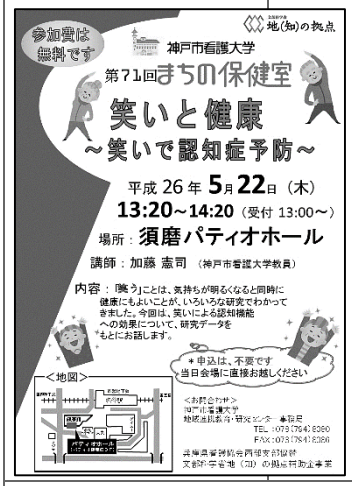
継続看護・訪問看護教育

大学院 CNS コース

コラボ教育

地域住民の方が「教育ボランティア」として、概論・演習科目において模擬患者や経験談を語っていただく講義を、一部の科目において新たに北須磨地域において展開する。科目開講により、卒業生全員が地域住民の暮らしを理解できる人材の育成を目指す。本年度は 1、2 年次の 3 科目（必修科目）を北須磨地域において実施した。

科目名（単位）	学年	実施内容
ヘルスプロモーション論（1 単位）	1 年生 103 人	教員による住民への健康増進・疾病予防講義を学生が見学し、課題演習としてレポートする。 ● 講演テーマ：「笑いと健康：笑いで認知症予防」 ● 開催日、場所：5 月 22 日、須磨パティオホール ● 住民参加人数：32 人（65 歳以上は 21 人） ● レポート課題：「市民対象の講義における良かった点と改善すべき点についての意見」「より多くの市民に参加していただくにはどうすればよいか。アイディアの提案」 ● 住民からのアンケート 講義内容の満足：とても満足　62.1%、まあ満足　37.9% ● 学生の課題評価　103 名提出



【科目担当者から】　　**専門基礎科学領域健康科学分野　准教授　加藤憲司**

今回の講義の良かった点として、興味深い意見があった。それは普段、高齢者と接する機会が少ない学生たちにとって、たとえ一方通行な講義であっても、どういう話題にどう反応するか、どこで笑うか、といった様子を目にすること自体が新鮮な体験であったという点である。確かに、祖父母と同居している学生は必ずしも多くはない。そのため、高齢者を身近な存在として感じたり考えたりする機会も多くないのであろう。これはまだ 10 代が多数を占める学生たちならではの観点・発想であると言え、教える側としても発見があった。

今回の講義で改善すべき点として、「学生ボランティア」という役割を 10 名程度の学生に事前に与えておいたのだが、当方も初めてで勝手がわからなかったため、彼女たちを有効に活用することができなかった点が挙げられる。これはまったく指摘のとおりであり、地域住民との交流をいかに深めるかを工夫するうえでの課題として検討したい。

多くの市民に来場してもらうための方法として多かったのは、「定期的に開催すること」という意見であった。確かに、単発の催し物だけでは集客を望めるはずもなく、繰り返し開催することを通じてこそ、地域への浸透が期待できるであろう。また、現代の若者らしい意見として、「口コミで広める」というものがあった。言うまでもなく、現代では多数の若者がいわゆるソーシャルネットワークサービス（SNS）などの口コミの手段を日常的にふんだんに利用している。こうした SNS を地域でのネットワークづくりにどのように工夫し活かしていったらよいか、アイディアをもっと聞きたいと思わせる意見であった。

科目名（単位）	学年	実施内容
基礎看護技術　演習Ⅲ（2 単位）	2 年生 93 人	住民にヘルスインタビューとフィジカルアセスメントを実施する。 ● 健康アセスメント内容：「呼吸・循環器系」「栄養」「筋・骨格系」 ● 開催日・場所：6 月 3 日～7 月 31 日　計 12 回・竜が台地域福祉センター（10 回）、菅の台地域福祉センター（2 回） ● 住民参加人数：のべ 254 人（リピーター数　109 人） ● 課題：健康測定・インタビューに関するアセスメントシート、レポート「地域住民の健康状態と暮らしについてアセスメントし、必要なヘルスニーズについて把握するとともに健康ニーズを充足するための生活の工夫や衣食住の調整についての考察」 ● 学生課題の評価 ・住環境、家族構成に関する内容の記載ができている：82.8% ・日常の過ごし方・習慣に関する内容の記載ができている：96.8% ・健康面で困っていることや健康上の課題について聞き取りができている：93.5% ● 健康に留意した日常生活の過ごし方について聞き取りができている：98.9%

神戸市看護大学

地(Jiri)の拠点

看護学生が皆さんの町に来ます！
健康測定を通して、皆様の健康について
いっしょに考えさせてください。

いっしょに健康を考え隊！

健康測定を受けて、ご自身のからだについていっしょに考えてみませんか？
ぜひご参加くださいますよう、ご協力よろしくお願いいたします。

内容：血圧、体脂肪、骨密度・・・など（日によって内容が変わります）
会場：竜が台地域福祉センター
日時：下記日程の 13時30分 ～ 15時00分
※カレンダーに ◯ がついている日に、実施いたします。
※どなたでも、何回でも、参加していただけます。

6月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

7月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

お問合せ：神戸市看護大学　地域連携教育研究センター
☎（078）794－8080

【科目担当者から】　　**基盤看護学領域基礎看護学分野　助教　玉田雅美**

学生にとっては学外で地域住民の方にインタビューや測定を行う初めての機会となった。そのため、インタビューでは、地域住民の健康状態と暮らしを知るために、どのような質問をどのように行えばよいのかを考える機会になっていた。また、実際には、言葉遣いや答えやすい質問の仕方などを学ぶことができていた。学生からは「学生同士の時と異なり、初対面の人とのコミュニケーションのとり方が難しかった」「インタビューで『健康です』『よく睡眠をとっています』と言った人が、後で実は睡眠剤を飲んでいたことがわかった。はじめに聞いた情報より、ゆっくり話を聞く中でわかることがあると思った」という感想が聞かれた。

測定に関しては、学内演習で学んだばかりの血圧測定や計測であったこと、初めて地域住民に行う機会であったことから、測定に時間がかかり、手技に自信がない様子や緊張している様子もみられた。しかし、住民の方が学生を温かく見守り、わからないことは質問してくださることで、丁寧に対応することができていた。学生は、学生同士で計測するときと違って、測定の難しさや、計測値の幅の広さを実感することができ、住民の方に計測値をどのように伝えるとよいのか、といったことを考えながら実施していた。学生からも「緊張して血圧も脈拍もうまく計測できなかったが、住民の方が優しく待ってくださった」「計測では自分の未熟さがわかった。練習が必要だと感じた」「測定値が標準の場合はいいが、そうではない場合、「気にされてはいけない」と思い、「どういうふうに伝えればいいのか難しかった」という感想があった。

このようなやり取りを通じて、プロフェッショナルへ向かう一歩として、測定技術を使えることで期待されていること、返さなければならないこと等、住民という対象者がいてそれに応えることへの自覚と対応していくことに伴う責任など感じとれたのではないかと思われる。

科目名（単位）	学年	実施内容
基礎看護技術演習Ⅰ（1単位）	1年生 104人	住民にヘルスインタビューを実施する。 ● 内容：「睡眠をみなおそう！　休息・睡眠を促す援助：生体リズム・生活リズム」 ● 開催日・場所：10月8日・須磨パティオホール ● 住民参加人数：15人（うち講義聴講のみ2人） ● 住民からの評価 ・講義内容：「とても有益だった」　71.4%、 「まあ有益だった」　28.6% ・学生とのグループワーク：「とても有益だった」　83.3%、 「まあ有益だった」　16.7% ● 課題：事前学習「典型的な1日の過ごし方を書き出す」、グループワーク「発達段階による生活リズムの違いを共有する」 ● 学生からの評価 ● グループワークの有益性：「とても有益だった」　80.2%、「まあ有益だった」　17.8%、「あまり有益でなかった」　1.0%

【科目担当者から】　　**基盤看護学領域基礎看護学分野　准教授　柴田しおり**

本授業科目は1年生が初めに履修する技術演習科目で、「看護行為に共通する技術および健康的な日常生活行動を促進する基礎的な援助技術について、その知識と方法を習得する」ことをねらいとしている。「休息・睡眠を促す援助」の単元である本企画は、生体リズムに関する基礎的な知識を得て、ひとの健康生活の柱のひとつである「休養」の意義を理解し、異なる世代との交流を通して各々の生活リズムの特徴を知り、課題や工夫について共に考えることを目標に実施した。

グループワークは、住民さん1名と学生8～9名のグループを作り、学生の進行で行った。学習方法としてのグループワーク経験が少ないうえ、世代の異なる人とのコミュニケーションの機会が少ない学生達はとまどいながらのスタートであったが、住民さんの協力により徐々に緊張が和らぎ、活発な情報交換がなされていた。学生は、自分たちとの生活リズムの違いに率直に驚き、多くの住民さんの生活リズムは規則的で、目的的な活動を生活の柱にしながら、社会活動を継続して日々充実した生活を送っていることを知り、貴重な経験ができたと感じていた。また、その人の生活を理解することがひとを理解するために重要であることを実感し、同時に自分の生活を見直したいとふりかえる学生も多かった。

住民さんからは以下のような感想をいただき、参加者双方に有意義な企画であったと考える。

・講義内容の解説がとてもわかりやすく、拝聴いたしました。「明かり」の大切さ、必要を知りました。早寝早起きを心がけようと思います。

・とても有益でしたし、若い方の生活がよくわかりました。応援しています。

・若い学生さんたちに囲まれて、何歳か若返ったような気がします。睡眠時間が平均より短いのに気がつきました。　（以上、抜粋）

オプション企画として睡眠測定とその評価を予定していたが、結果の提示が予定より遅れたため、その企画に対する評価が今年度は十分できなかった。次年度は、参加者の募集時期を含めた全体スケジュールを見直し、参加者の客観的データに基づく睡眠評価も内容に含めた授業展開とすることが課題である。

継続看護・訪問看護教育

神戸市における地域ケアシステム、在宅医療の連携システムの中で継続看護および訪問看護の実践者としての役割を果たせる人材の育成を目指して、本年度は 4 科目の概論・演習科目において実践者をお招きし、講義を行った。またこれまで西区において実施していた、健康生活支援学実習の一部を須磨区においても展開した。

1）実践者による講義科目

科目名（単位）	学年	開講日	講師（所属）	講義内容
慢性病看護学概論（1 単位）	2 年生	6 月 19 日	藤田愛氏　（北須磨訪問看護ステーション所長・慢性病看護学専門看護師）	「糖尿病と下肢動脈閉塞を抱えながら療養生活をおくる高齢ご夫婦を支える訪問看護」
在宅看護概論（1 単位）	2 年生	2 月 6 日	原田三奈子氏　（訪問看護ステーションすまぁと管理者・訪問看護認定看護師）	「訪問看護ステーションにおける運営管理について」
在宅看護論（1 単位）	3 年生	7 月 8 日	好地紅子氏　（適寿リハビリテーション病院リハビリ部副主任・理学療法士） 三宅智久氏　（宮地病院リハビリテーション科主任・訪問リハビリテーション非常勤） 市橋正子氏　（恩葉会在宅緩和ケアセンターホスピス所長）	「在宅療養者の看護：リハビリテーション看護」 看護師によるリハビリテーションの基礎知識と専門職間の連携・協働について考える
がん看護と緩和ケア（1 単位）	3 年生	7 月 21 日	梅田節子氏 （神戸市立医療センター中央市民病院・がん看護専門看護師）	緩和ケア外来看護師として、「通院中のがん患者および家族の継続支援と在宅移行」

2）健康生活支援学実習（2 単位）

- 対象学年：2 年生　82 人（5～10 名　1 グループとなり、9 グループを構成）
- 実習期間：平成 27 年 2 月 16 日～27 日
- 実習習場所：神戸市西区 8 小地区（学園都市、伊川谷、神出、長坂・有瀬、押部谷西、平野、西神西、桜ヶ丘）と須磨区（竜が台・菅の台）
- 教育ボランティア登録人数：82 人
- 実習目的：地域で生活する人々の中で人と関わる力を養い、人々の生活と生活の場である地域を理解し、その人にとっての「健康」とは何かを考える。また人々が健康を維持・増進するための支援のあり方を考察する。
- 実習目標：
  1）地域で生活する人々に関心を持ち、相手の立場を考えながら人と関わる力を養う。

2）地域で生活する人々を理解し、健康を維持・増進するための支援を考える。

3）対象者と家族が生活する地域について理解し、健康の維持・増進と地域の特徴との関連について考察する。

- 実習概要：地域の人々の生活を理解し健康な生活を支援する能力を育成するために、平成 19 年度より西区で実施している。COC 事業の開始とともに、本年度より須磨区においても実施を開始した。学生は、グループに分かれ担当する地区の探索、登録いただいた教育ボランティアさんへのインタビューを行う。下の表は、2 週間の実習スケジュール例として、須磨区で実際に実施した行動計画である。

		月	火	水	木	金
1週目	午前	全体オリエンテーション（学内）	教育ボランティアさんへのアポイントメント（学内）	教育ボランティアさんへのインタビュー	教育ボランティアさんへのインタビュー	地域探索（友が丘地区）
	午後	地区別オリエンテーション、実習計画作成（学内）	地域探索（名谷駅周辺）	地域探索（菅の台地区）	地域探索（竜が台地区）	教育ボランティアさんへのインタビュー
2週目	午前	地域探索のまとめ（COC サテライト室）	地域探索のまとめ（COC サテライト室）	地域探索のまとめと分析（ユニティ）	合同カンファレンス準備（学内）	面接、実習まとめ（学内）
	午後	地域探索（竜が台、菅の台地区）	あんしんすこやかセンター訪問	合同カンファレンス準備（ユニティ）	合同カンファレンス（学内）	自己学習

地域住民さんとグラウンドゴルフを体験

地図を見て地域の特性について情報整理

大学院 CNS コース

科目名（単位）	学年	実施概要
精神看護学特講演習Ⅰ（2 単位） （科目担当者：健康生活看護学領域精神看護学分野　安藤幸子、山岡由実、西山忠博、蒲池あずさ） 	精神看護学　CNS コース 2 名	**「こころと身体の看護相談」への参加** ●開講期間：平成 26 年 7 月～平成 27 年 2 月 ●実施回数：7 回 ●実施場所：ユニティ ●概要：大学院生 2 名が教員の指導のもとでクライアントの相談にあたった。「こころと身体の看護相談」は、月 1 回のペースで年間を通じて開催しており、その内大学院生は、平成 26 年 7 月～平成 27 年 2 月の期間に、実人数 9 名のクライアントに対して、延べ 16 件の相談にあたった。 担当したクライアントの年齢は 60 歳以上の方が中心で、様々な心の悩みや生活上困難を抱えている人たちであった。9 名のうち 2 名は、継続相談を希望され、地域に根差した開かれた相談の場としての機能を果たしていると考えられる。 大学院生からの評価：クライアントの精神状態、状況に合わせて相談にあたるのは難しかったが、実際にクライアントの相談にのることができる貴重な機会だった。今後のコンサルタント活動等に生かしていきたいと思う。 **「こころとからだのリラクゼーション」への参加（出前講義）** ●開講期間：平成 27 年 1 月 22 日（木）14 時～16 時 ●実施回数：1 回 ●実施場所：北須磨文化センター2 階　和室 1 ●住民参加人数：6 名（全員女性） ●概要：大学院生 2 名によるストレスとリラクゼーションについてのミニ講義と、リラクゼーション演習として、呼吸法と漸進的筋弛緩法を実施した。参加者の方は、様々なストレスを感じておられるようであったが、リラクゼーション実施後は、「気持ちがよかった」、「リラックスして眠たくなった」、「血流がよくなり体がポカポカした」といった感想が聞かれ、効果を実感していただくことができたと思われる。このような時間をもつことは、日々のストレスを軽減し、健康増進に役立てることができるのではないかと考える。一方で、「もう少し（漸進的筋弛緩法で使用する）時間が長いほうがいい」、「家では難しくてできない」といったご指摘をいただいたので、今後の参考とさせていただきたい。 　大学院生からの評価：市民の方と交流の場をもち、講義・演習を実施するという体験は大変貴重であり、今後の活動に生かしていきたいと思う。